

RH-01 「いわて花巻空港と台湾との国際定期便就航に向けた 地域の国際化推進に関する研究」

課題提案者：岩手県県土整備部空港課

研究代表者：盛岡短期大学部 原英子

研究チーム員：畠山英司（岩手県県土整備部空港課）

<要 旨>

岩手県はいわて花巻空港と台湾との国際定期便を就航させるために、両者の交流が拡大するよう推進している。本研究では次のことを行った。(a) 岩手県民が台湾へ、また台湾の人が岩手県に、それぞれ魅力を感じてもらうため、アンケート等の調査を通じて基礎データを収集した。(b) 東日本大震災で岩手に多額の義援金を送った台湾と被災地岩手県との関わりを中心に台湾からの支援と人的交流から地域の国際化推進の実態を明らかにすることに努めた。

1 研究の概要（背景・目的等）

東日本大震災後、台湾から日本へ、多額の義援金等が送られた。その金額がアメリカに次いで多かったため、それまで台湾に関心がなかった多くの日本人が台湾へ関心を高め、話題になった。こうした中、被災地岩手県では、台湾の航空会社に対してチャーター便を国際定期便化する要望がなされた。本研究では、日本と台湾との国際化推進のため、大きく次の2方向からデータを収集した。

(a) 岩手県からみた台湾と、台湾からみた岩手県：

アンケート調査やインタビュー調査、フリーディスカッションなどをおこない、基礎的データの収集に努めた。

(b) 台湾と被災地岩手県との交流：

台湾との交流の実態を明らかにすることに努めた。

これらの研究成果について日本国内（1回）、海外（台湾）（2回）での発表、報告書、論文（10点。印刷中含む）を出してきた。台湾のウェブサイトに掲載され（2点。うち予定1点）、中国語に翻訳され、日本語との2言語併記でインターネットを通して読むことができるものもある（うち1点）。

2 研究の内容（方法・経過等）

(a) 岩手県からみた台湾と、台湾からみた岩手県

1) 台湾からのチャーター便旅行者を対象としたアンケート調査をおこなった。（2014年6月12日、15日、19日）アンケート結果は、後述の「6研究成果」1に報告した。（以下、研究成果1のように記す。）

2) 岩手県在住台湾人留学生と「台湾における岩手県の認知度、知名度アップのための方策等についてのフリーディスカッション」を2014年6月9日、岩手大学学務部国際課の協力で同大学国際交流センターで開催した。ディスカッションの結果は、研究成果2に報告。

3) 岩手県の観光業者を対象とした台湾人観光客受け入れ体制について、アンケート調査とインタビュー調査（2014年7月）をおこなった。結果は、研究成果3に報告した。

4) 台湾台北で開催された岩手県の認知度アンケート調査をおこなった。結果は研究成果4に報告した。

5) 台湾台北市でおこなわれた「2014日本東北六県感謝祭」（2014年12月19日-22日）でのインタビュー調査、および感謝祭の主催にかかわった陸運局の担当者へのインタビューをおこなった。結果は研究成果5に報告した。

(b) 台湾と被災地岩手県との交流

地域の国際化推進の実態として、6)、7) に記した2つのテーマで報告した。6) は台湾の土石流被災地「小林村」と山田町との交流、7) は台湾赤十字組織の海外支援による建物の再建活動とそこでのインタビューを中心とした報告である。

6) 2009年8月8日、台風8号（モーラコット台風）によって、台湾の中部から南部にかけた広大な地方が甚大な被害を受けた。なかでもタイヴォアン系シラヤ族の人々が居住していた小林村では大規模土石流災害の「深層崩壊」が起り、村が埋まり、462名の犠牲者がでた。当時NHKでも取り上げられ「深層崩壊」への対策が日本でも注目された。

小林村の人々は3箇所に分住することになったが、2011年末、彼らは自分たちタイヴォアン系シラヤ族の伝統を伝える大満舞踊団（中国語名：大満舞団）を結成した。その後、生活がまだ苦しい中、東日本大震災の被災地へ義援金をおくっている。それから被災地公演を目標におき、各地の公演で得たお金をコツコツ貯めてきた。2014年6月、岩手県山田町公演が行なわれ目標を実現した。援助金を使わずに自分たちだけの力で遠征したことにより、小林村は復興を台湾内外に示すことができた」と評価されている。

海外公演をコーディネートしたのは、同じく2011年という震災の年に結成した台北の南山ロータリークラブであった。彼らは山田町ロータリークラブに働きかけ、公演を実現させた。台湾南山ロータリークラブは震災の年に結成した縁を大切に思い現在も被災地支援を積極的に行っている。

山田町ロータリークラブでは2015年3月に被災体験を綴った作文を書いた高校生（当時中学生）3名を台湾へ派遣した。台湾との交流は今後も続けようとしている。

以上は研究成果6、7、8に報告した。

7) 台湾からの海外支援によって再建された建物がどこにあるのかの実態調査を行った。その結果、台湾赤十字組織が多くの被災建築物の再建に関わっていることがわかった。住宅、アパートのほか保育園や幼稚園の再建援助をおこなっていた。それらの施設関係者に被災時の状況や台湾との関わり等についてインタビューし、研究成果6、8、9に報告した。

これらは、台北の国立政治大学の先住民民族研究センター（Center for Aboriginal Studies, National Chengchi University）でおこなわれた国際シンポジウムで報告し

た（2014年10月12日 研究成果6）。これをもとに台湾政府の機関である行政院原住民族委員会、教育部、国立政治大学先住民族研究センター主催の教育界雑誌『原教界（Aboriginal Education World）』に中国語訳とともに掲載された（研究成果8、台湾のサイトで公表、研究期間終了後、研究成果9で発表）。

3 これまで得られた研究成果

研究成果については後述の研究成果リストにあげている。ほとんどがインターネットで公開されている。ここではそうした成果の一部を紹介する。

1) 台湾からのチャーター便旅行者を対象としたアンケート調査の結果、岩手県や東北にくる観光客は日本に何度も来ている人が多いことがわかった。ゆえに日本の他の観光地と比べた人が多いことが推測される。このことを頭においておく必要がある。回答のなかで改善を要求された意見には、観光地での中国語表示の少なさ、Wi-Fiの使い勝手の悪さ、食べ物がかたい、塩辛い、醤油が多すぎるなどがあった。また温泉は魅力的だと感じている者が多い反面、料理や宿泊施設に魅力を感じているものが少なかった。その他、台湾から観光地やホテル情報をとろうとした場合、日本語のみのサイトが多く、外国人に不親切であることが指摘されていた。好評価としては、風景が美しい、秋にまた来たい、次回は風俗や習慣などもっと深く知る旅行がしたいという感想も聞かれた。また、もっと岩手を宣伝してよいといった助言もみられた。

2) 岩手県在住台湾人留学生とのフリーディスカッションでは留学生自身が困ったこと、日本旅行にきた親戚や友人の体験談が聞かれ貴重な話が多かった。それにより展勝地の桜の人気の高いこと、居酒屋の人気の高いこと、東京からジャパンレールパスで岩手を經由した観光が多いことがわかった。

3) 観光業者による台湾人観光客への対応アンケート調査では、台湾人観光客から不評のWi-Fi設備、中国語表示の不十分さの問題が明らかになった。しかし業者によっては、宗教等による食事制限や土産物の税関への配慮など、積極的に受け入れの対応をしている業者もみられた。今後、観光客の不満を改善への手がかりとする姿勢が必要だと思われる。

前掲5)でとりあげた「2014日本東北六県感謝祭」は東北各県の、台湾での人気度を見るイベントでもあった。人気の高いイベントには人々は大勢が詰めかけた。他県の取り組みはこれからの観光の参考になろう。

4 研究期間終了後の展開

国際シンポジウムなどで発表し、論文集への掲載（予定）を行ない、台湾へも成果を発信している。

9) 原英子 2015g「震災を契機とした岩手県と台湾との交流」（日本台湾学会第17回学術大会 於：東北大学川内北キャンパス 2015年5月23日）ここでは2014年度の本研究報告書提出後の動きを付加して報告した。6研究成果-9

10) 原英子 2015h「台湾人旅行者からみた岩手の観光—いわて花巻空港でのアンケート調査をもとにした考察—」（台湾静宜大学 国際シンポジウム「2015日本学と台湾学」2015年5月30日 於：台湾静宜大学任垣楼国際会議場）。研究成果1をもとに分析と考察を加え発表をおこなった（研究成果10）。シンポジウムの論文集が台湾

静宜大学から出版予定である。ウェブサイトでの閲覧準備中。

5 今後の展開

国際リニアコライダープロジェクト（ILC）誘致や、世界遺産平泉、釜石橋野の鉄鉱山・高炉跡など、海外からの観光客をどれほど誘致できるかは岩手県にとって大きな問題である。特に1つの県で2つの世界遺産をみることのできる魅力をアピールできればと思う。日本通が多い台湾人には、いわて花巻空港の利用とともに、ジャパンレールパスの利用も視野におき、使い勝手のよい旅行を提案していく必要を感じる。

6 研究成果

下記1から5は『岩手県立大学盛岡短期大学部 研究論集』第17号に掲載され、インターネットによる閲覧が可能である。10は台湾静宜大学でウェブサイトからみることができるよう準備中（2015年7月7日現在）。

1. 原英子 2015a「2014年いわて花巻空港台湾便就航に関する調査報告1—台湾からのチャーター便旅行者を対象としたアンケート調査結果—」（『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』17）91-96頁
2. 原英子 2015b「2014年いわて花巻空港台湾便就航に関する調査報告2—岩手県在住台湾人留学生とのフリーディスカッション報告—」（『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』17）97-102頁
3. 原英子 2015c「2014年いわて花巻空港台湾便就航に関する調査報告3—岩手県の観光業者を対象とした台湾人受け入れ体制アンケート調査—」（『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』17）103-106頁
4. 原英子 2015d「2014年いわて花巻空港台湾便就航に関する調査報告4—台北での岩手県認知度アンケート調査結果—」（『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』17）107-112頁
5. 原英子 2015e「2014年いわて花巻空港台湾便就航に関する調査報告5—台北市での「2014日本東北六県感謝祭」見聞報告—」（『岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集』17）113-118頁
6. 原英子 2014a「小林村大満舞踊団がやって来た—東日本大震災被災地岩手県山田町から見た台湾の支援—」2014年第7届台日原住民族研究論壇（2014年第7回台日原住民族研究フォーラム）Proceeding 271-280頁
7. 原英子 2014b「小林村大満舞踊団による岩手県山田町での被災地公演」（日本順益台湾原住民族研究会編『台湾原住民族研究』18）風響社 134-141頁
8. 原英子 2015f「小林村大満舞踊団の東日本大震災被災地公演—在岩手県山田町開始した来自台湾の支援と交流—」（『原教界（Aboriginal Education World）』60 Council of Indigenous Peoples, Executive Yuan, Taiwan）（<http://www.alcd.nccu.edu.tw/index.php?routing=Publication&action=view&id=66>）
9. 原英子 2015g「震災を契機とした岩手県と台湾との交流」（日本台湾学会第17回学術大会（於：東北大学川内北キャンパス 2015年5月23日）Proceedingをインターネットで配信（会員限定）。（<http://www.jats.gr.jp/taikai/17th/program17.html>）2015年6月5日で終了）
10. 原英子 2015h「台湾人旅行者からみた岩手の観光—いわて花巻空港でのアンケート調査をもとにした考察—」（台湾静宜大学 国際シンポジウム「2015日本学と台湾学」2015年5月30日 於：台湾静宜大学任垣楼国際会議場）

【謝辞】 アンケート調査項目づくりには岩手県県土整備部の畠山英司氏、中国語訳には李楠さんにご助言いただきました。またアンケート調査には、岩手県空港ターミナルビル株式会社代表取締役社長中田光雄氏、フリーディスカッションには岩手大学学務部の崔華月さん、そのほか山田ロータリークラブの大杉繁夫会長、阿部幸栄元会長、山崎淳一幹事をはじめとする方々、並びに本研究を遂行するにあたりご協力いただいた皆様方にこの場をかりて感謝いたします。お名前の詳細は、2014年度末に地域政策研究センターに提出した別冊の研究報告書に記載させていただいております。